

一心太助の天秤棒 ～前の籠には責任を、後の籠には信頼を 肩に担いで売り歩く～

越谷市議員 白川 ひでつぐ

シリーズ/NO 140号



Web サイト



Youtube



Twitter



Spotify

駅頭は小さなドラマの連続だ！

初当選以来6期21年間毎日毎朝続ける東武鉄道の市内6駅での朝の駅立ちは、通算4200日を超えました。私の日々のツイッターのつぶやきから、転載したものを含め、駅前の様々な市民との出会いや何気ない駅前の風景、市民の日常を通した暮らしへの息遣いをエピソード集としてシリーズでお届けしています。

YouTubeの白川ひでつぐ公式チャンネルの登録者は262名を超えました。引き続き配信を継続していますので、これまでのご協力に感謝し、更にご登録をお願いします。

チャンネル登録



「地方自治を考える市民のつどい」越谷市議会の地方自治法改正反対の意見書採択を受けて



今朝の駅立ちは、蒲生駅東口で通常どおり午前6時前から市政レポートの配布を開始した。

何人もの馴染みの市民の方から、暑いので体に気を付けて、暑い中ご苦労様です、と声がかかる。不思議なもので2時間30分を超える毎日

の活動は正直に言えば投げ出したくなるのは一度や二度ではないほど肉体的にも精神的にも疲弊することが少なくない。

ただ、市民の皆さんのこんな一言が気を取りなおさせてもらえる体験も同時に少なくはない。帰宅して一杯のコーヒーを飲みながら今日も午前4時過ぎからの起床から午前9時過ぎまでの5時間が充実していたと実感する一時。

午後6時30分からは「地方自治を考える市民のつどい」を越谷駅前の越谷市民活動支援センターを会場に開催するため、午後5時には会場に入りスタッフ打合せ、準備に取り掛かる。

この集会は、6月越谷市議会で「地方自治法改正に反対する意見書」が、自民、公明、維新の会等が反対しものの賛成多数で採択されたことを受けて、その経緯や論点の整理のため市民報告集会として、私が共同代表をしている埼玉政経セミナーが主催した。

改正法の解説と問題点の指摘を神奈川大学教授の幸田雅治先生から、また国会での論戦や今後の攻防を小川淳也衆議院議員からそれぞれズームを通して話して頂いた。

これを受けて、この意見書を越谷市議会から政府に提出して欲しい、との市民請願も採択されており、その請願者の市民3人と紹介議員3人がそれぞれ審査状況や問題点が報告された。

私はコーディネーターとして、反対した議員の討論の要点を出来るだけわかりやすく解説。（議場での反対討論はすでに越谷市議会ホームページにアップされているので、その動画を会場に映しながら）

最大の争点は、災害時の緊急事態に基礎自治体が十分に対応出来ない場合には、抑制的ではあるが政府・大臣からの直接の自治体への指示は必要ではないのか、というもの。

確かに本年元旦の能登半島地震の際に馳浩石川県知事や被災自治体の対応には様々な問題点が表出したのは事実だ。

しかし、それならば今回政府からの直の指示命令が発せられていれば遅滞なく対応出来たかと言えばそうではない。

災害対応はまさに日常的な基礎自治体における組織運営や地域防災システムの稼働であり、また基礎自治体は広域的な連携機構を既に作り上げている。

そのための専門職員の派遣や情報共有、財政を含めた後方支援こそが政府の責任と役割であることはすでに地方6団体から何度も政府に指摘がなされている。（7月11日・木曜日）

私の在職25周年を祝う会、総勢145人を超える知事、市長、衆議院議員、地方議員、市民等の参加で会場はあふれた



7月20日、市内新越谷にある越谷サンシティの「桐の間」で開催して頂いた「白川秀嗣氏議員在職25周年を祝う会」は、市内はもとより埼玉県内、県外そして全国から参加して頂いた皆さんが終始華やかな雰囲気の中、テーブルのあちこちで談笑や、交流が続き盛会となった。

発起人に福田晃越谷市長、島田玲子越谷市議会議長をはじめ4人が。

来賓には大野元裕埼玉県知事、黄川田仁衆議院議員、小宮山泰子衆議院議員、野口圭司越谷市議会自民党市議団代表、川村耕治越谷市桜井地区連合自治会会長、石河秀夫元埼玉弁護士会会長、中村守元埼玉中小企業家同友会東部地区会会長の皆さんに祝辞を頂いた。

会場には、教育長や副市長をはじめとする市職員、地元自治会の会長、埼玉県や千葉県の県会議員をはじめ首都圏の地方議員、がんばろう越谷グランドゴルフの役員、越谷技術高校のPTAのOB会の役員、がんばろう日本国民協議会の役員、中小企業家同友会の役員、会員、毎朝の駅頭でチラシを受け取って頂いている市民、タウンミーティングや市民対話集会に参加して頂いている市民、これでの私の選挙対策委員会の役員、SNSを通して知り合った市民、チーム白川の市民、私の家族や親せき等総勢145名を超えたため、会場では用意した椅子が不足してしまい、急遽補充することにも。

特にスタッフ総出(15名)で練習や独自のシナリオ作成、動画編集、ビデオ、音響、照明、大道具や小道具作成等およそ3か月間の準備の中「プロジェクトS—ウグイス嬢たちの初体験～ある選挙戦の真実—」の寸劇には、エレク

トーンの弾き語りによるプロの女性歌手(ボランティア出演)の「愛の賛歌」で締めくくられた演出に会場は最高の気分。

アルコールを一切提供しないティーパーティーも異例だったのだが、参加者に配布した私のミニ写真集 vol1(白川の流儀)と vol2(白川秀嗣の生い立ち)にも、白川さんの知らない一面があった、こんなにかわわいい赤ちゃんだったたんですねと何人からも声を掛けられた。

また、私の長男は岡山大学の講師で岡山市から、長女とその夫はIT関連会社の役員で2人のこどもとともに富山市から、次男は外資系企業の社員で市内在住で妻と3人のこどもと、また義理の父親も一緒に、私の妹は福岡市から、それぞれ参加した。

更に次男の息子によるルービックキューブを30秒以内で完成させる演技も披露され会場はやわらかな拍手に包まれた。

地方議員として半世紀が過ぎたが初当選した当時より社会は複雑化し、市民同士の関係性がより深刻な事態に陥っていることを日々痛感させられる。そのたびごとに自分の責任とは何か、何が求められているのか、どこまでできるのか、と自分を律する事を改めて確認する区切りの式典となった。

当日の様子動画は、私のYouTubeでご視聴を。

(7月20日・土曜日)

髪を切った女性に対し「失恋したのかい」と男性が語り掛ける—これはセクハラ？

猛烈な暑さが連日続く中、埼玉縣市議会議員会・第4区議長会が主催し毎年定例開催している議員研修会が、7月24日午後2時から三郷市文化会館で開催された。この日の研修テーマは「議員ハラスメント防止について」と題して太田雅幸弁護士が講演した。

私は越谷市議会議員11名と共にバスで会場と越谷市役所を往復して参加した。こんな事例はセクハラに当たるかどうかの練習問題が出され①髪を切った女性に対し「失恋したのかい」と男性が語り掛ける②暑がっている女性に「更年期障害？」とからかう③体調が悪そうな女性に対し「今日は女の子の日なの？」と聞く等、これからは全てセクハラと指摘された。会場からも女性議員が質問に立ち選挙での票ハラ問題も取り上げられた。(7月24日・水曜日)